成果の説明書

(氏名)　齊藤由倫	(学部)　地域政策学部

1　重要事項

○教育活動

講義は、「環境社会学」「物質と環境」「初年次ゼミ」「環境教育論」「フィールドワーク入門」「基礎演習」を担当した。どの講義も参考書内のキーワードに実務家教員（前職：群馬県職員）としての経験談を交えて説明することで、行政現場の実情やビジネスマナーの留意点を学生が具体的にイメージできるよう心掛けた。とくに教員の専門領域である廃棄物に関しては、課外活動として廃棄物処理施設における「ごみ組成調査」のフィールドワークや、「食品ロス削減全国大会」に学生を連れて参加した。一方、専門領域だけに偏らぬよう前職の人脈を活かして群馬県庁からゲストスピーカーを招き、地域の産業振興や過疎地域の活性化などの幅広い話題提供にも努めた。

○研究活動

教職 1 年目の今年度は教育活動に多くの時間がとられたため、データ取りが中心となったが次の通り研究活動を進めることができた。

廃棄物関連では「自治体の普及啓発施策がもつ生活系ごみ削減要因の探索に関する質的・量的研究」（科研費基盤 C, 研究代表者：齊藤由倫）を進め、普及啓発施策の一つである環境教育に関して大学生にアンケート調査を行った。これにより、個人レベルの努力だけではなく法制化や常識の転換などのいわゆる社会変革が必要であること、その理解促進に環境教育が寄与すること等についての示唆を得た。また、ごみの少ない 5 自治体にインタビュー調査を行って、とくに普及啓発施策の実施や評価の政策段階に関するデータも得た。以上の通りデータ取りを進めたが、今年度は誌上発表にまで結びつけることは出来なかった。一方、前職から継続してきた大気汚染に関する共同研究では誌上発表に資する貢献ができた。主な成果発表は以下の通り。

【成果発表】

＜廃棄物関連＞

(1) 齊藤由倫. 学生の自己効力感と国の SDGs 進捗に関する一考察　―社会変革に向けた環境教育の可能性―, 第 35 回日本環境教育学会, 流山市.

＜大気汚染関連＞

(2) 友松瑛里, 熊谷貴美代, 坂本祥一, 齊藤由倫, 小池有理子, 田子博. 群馬県における光化学オキシダント生成に関わる揮発性有機化合物の高時間分解能観測, 群馬県衛生環境研究所年報, 56 巻, 2024.

(3) 熊谷貴美代, 小池有理子, 齊藤由倫. 群馬県における PM2.5 成分の経年変化, 群馬県衛生環境研究所年報, 56 巻, 2024.

(4) 熊谷貴美代, 星純也, 櫛島智恵子, 齊藤伸治, 鶴丸央, 永妻はな子, 齊藤由倫, 友松瑛里, 小池有理子, 長田和雄. 関東平野およびそのバックグラウンド地点における大気 VOC 濃度の季節変動, 第 3 回環境化学物質合同大会, 広島市.

(5) 熊谷貴美代, 齊藤由倫, 森野悠. 大気モデル計算結果を利用した大気汚染常時監視局再配置の検討, 第 65 回大気環境学会年会, 横浜市.

○社会貢献

・ 藤岡市 環境審議会 委員

・ 取材依頼：NHK 前橋「群馬 9 年連続全国最多　家庭ごみ削減が課題に」（10 月

30 日放送）

・ 講演依頼：（公）群馬県環境資源創生協会主催「4 ブロック研修会」（2 月 19 日）「演題：環境負荷を減らすごみ減量の視点」

・ 講演依頼：（公）前橋まちづくり公社主催「第 12 回まちづくり講演会」（2 月 20 日）「演題：私たちのごみ問題を考える」

2　その他の事項

【学内事務等】

・ 「大学のサステナビリティ経営に関する研究－『脱炭素化』を中心に」にオブザーバーとして参加し、成果報告書などに対してコメントした。

・ 地域政策学会学術研究会（令和 6 年 6 月）において「生活系ごみ減量化のための自治体の普及啓発施策の実証分析」と題して研究成果を紹介した。

3　次年度以降の計画・抱負

教育活動では次年度から新規開講する演習Ⅰ（学部 3 年次対象）において、研究論文の輪読やグループ研究を指導し、最後の学部 4 年次の卒業研究で必要となる研究スキルの向上に重点を置く。研究活動では、特に廃棄物関連について取得データの分析を進めて誌上発表を目指す。